

絶滅目前！ オガサワラカワラヒワを救えるか？

小笠原諸島森林生態系保全センター 専門官 諸星雄二

〔オガサワラカワラヒワとは〕



オガサワラカワラヒワ (*Chloris sinica kittlitzii*)
 ・スズメ目アトリ科カワラヒワの亜種
 (最新の研究でカワラヒワと分岐し別種になるかも)
 ・環境省のレッドリスト2020でCR(絶滅危惧 I A類)
 ・植物の種子を食べている
 ・繁殖期は4月～6月

種子(カタ/豆)を食べているペア
 (左がメス、右がオス)

【オガサワラカワラヒワの成鳥(オス)】
 種子食に適応し、くちばしが太く進化している

【ヒワの現状】

- ・母島列島個体群が100羽、南硫黄島個体群が100羽程度
- ・母島列島個体群では1回の繁殖期に3～4個産卵し、巣立ちが2羽、成鳥になれるのが1羽と見積もられている(硫黄島個体群は不明)
- ・寿命は3～4年と考えられている
- ・研究が進んでおらず生態がよく判っていない
- ・**自然下での絶滅回避は難しい**と考えられている

【個体数減少の原因】

- ・生息環境の悪化(外来種、土地利用、自然災害)
- ・外来種による捕食(ノネコ、ドブネズミ、クマネズミ)

【これまでの取組】

近年、ヒワの目撃数の減少やモニタリング結果から、絶滅寸前まで個体数が減少していることが指摘され、関係者間でヒワ保護にむけ、生息環境の改善、外来捕食動物の排除、域外保全等の取組がスタートしている。

(主な取組)

- H6～ ノネコ駆除(環) ※海鳥保護のため
- H8～ ヒワのモニタリング調査(林)
- H25～ 外来植物の駆除(林) ※植生回復のため
- R1～2 ネズミ駆除の実施(林)
- R2 オガヒワの会設立(民)
- R2～ ネズミ駆除の実施(環)
- R2～ ヒワ保全のためのWSの開催(環)
- R3 保護増殖事業計画の策定(国・環・林)
- R3～ ヒワ出現情報の共有(環)
- R3～ 域外飼育の開始(東)

【今後の目標】

- ・母島列島個体群を**2000羽程度**に回復
 →自然下でヒワが安定して生息できる

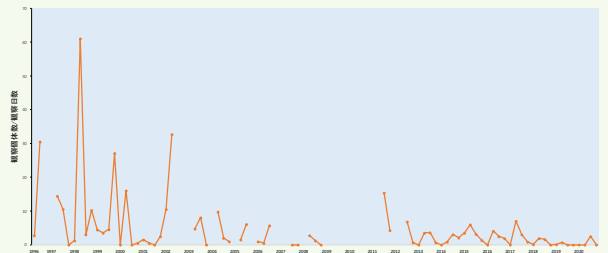
【分布】

昔は小笠原諸島全域に生息していたが、現在は母島列島(母島南部は飛来地)と南硫黄島のみそれぞれ100羽程度が生息するのみ



※2つの地域個体群(母島列島個体群、南硫黄島個体群)にそれぞれ100羽程度と推定

【オガサワラカワラヒワの観察個体数の年次推移】



【様々な取組を効果的に実施するためのポイント】

(取組の概要)

生息域内の対策

モニタリング
 (事業・学術調査)

ネコ駆除
 (事業)

生態調査
 (学術調査)

ネズミ駆除
 (事業)

生息域外の対策

飼育・繁殖
 (事業)

普及啓発
 (民間・事業)

(実施主体)

環境省・林野庁・東京都・小笠原村

研究者・専門家

NPO・事業者・島民

- ・取組内容が多岐にわたる
- ・取組主体が多い
- ・取組主体の特徴が異なる
- ・取組の進捗が揃いにくい
- ・情報が揃いにくい

情報共有・相互補完

が重要

オガヒワの会(民間)・各種ヒワ対策WG(民間・行政)

・様々な情報共有や対策、戦略等の議論の場として開催

【まとめ】

- ・**熱意** → 絶滅危機からの脱却には長い年月が必要だが、熱意を持って継続的に取り組んでいる。
- ・**科学的思考** → 学識経験者のほか、島民・NPOも科学的思考が染みついている。
- ・**情報共有** → オガヒワの会、各種ワーキンググループやワークショップが開催されている。
- ・**協力体制** → 小笠原は日頃から島民・NPO・学識経験者・行政が協力・協働している。
- ・**資金** → 民間資金に加え、保護増殖計画により公的資金が投入されている。

